様式第3号

# 自己評価報告書（最終報告）

| 報告者 | 生活・健康系コース（技術・工業・情報）／伊藤　陽介 |
|---|---|

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

**1．目標・計画**

①学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））として「研究課題：宇宙からの地球観測技術教育プログラムの構築と実践的研究（平成23～25年度）」が採択済みであり，平成24年度は研究計画に沿って研究を実施する。

**2．点検・評価**

①については，計画に沿って研究を遂行し，関連する研究成果を公表した。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

**1．目標・計画**

①本コースの教育研究内容を視覚的に分かりやすく伝えるように既存のパンフレットを改善する。
②大学等を訪問し，学生に対して本コースを紹介する。
③教員研修等に参加している現職教員に対して本コースを紹介する。

**2．点検・評価**

①については，コース独自のパンフレットを作成し，紙媒体及びインターネットで公開し活用した。
②については，大学等を訪問し大学院説明会を開催した。
③については，鳴門教育大学で開催した教員研修に参加した現職教員に本コースを積極的に紹介した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

**1．目標・計画**

①教科専門において学んだ内容と学校教育との関連性を明確にする授業を行う。
②実習を含む授業では，体験的な内容を充実させ，教育実践力がつくように配慮する。
③研究指導している学生に対しては，研究指導に加え就職支援活動も行う。
④学生から相談があれば随時対応し，親身になって相談できる教員を目指す。

**2．点検・評価**

①については，教科専門において学校教育との関連性を詳細に説明する授業を行った。
②については，体験的な内容を充実させ，実習を通して教育実践力がつくように授業内容を改善した。
③については，研究指導に加えキャリア指導を行い，研究指導した学生は学校教員に採用された。
④については，学生から相談があれば随時対応し，親身になってアドバイスした。

Ⅱ－2．研究

**1．目標・計画**

①情報技術および情報技術教育に関する専門的な研究を推進する。
②研究等で得られた成果をまとめ，学術雑誌等に論文投稿する。
③積極的に学術講演会や研究会等に参加し，研究成果を公表する。
④採択済みの学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））による研究を計画に沿って実施する。

**2．点検・評価**

①については，主に地球観測信号解析方法に関する研究と教育利用に取り組み，科学研究費補助金による研究を実施した。
②については，論文等3編が掲載され，リモートセンシングに関する英文教科書の執筆が完了した。
③については，国際会議2件，国内学会発表18件を行い積極的に研究成果を公表した。
④については，平成24年度科学研究費補助金（基盤研究（C））が継続（研究代表者）となり，平成25年度までの計画で研究を遂行した。

## Ⅱ－3．大学運営

**1．目標・計画**

①情報基盤センター所長として，本学の運営に貢献する。
②技術・工業・情報コース長として，本学の運営に貢献する。
③兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科生活・健康系教育連合講座副代表者として，本学の運営に貢献する。
④各種委員会委員として，本学の運営に貢献する。

**2．点検・評価**

①については，情報基盤センター所長として，本学の情報基盤を維持・管理・運営するとともに，教員養成系大学・大学院として特色ある情報環境整備のため次期情報基盤システムの構築準備を行った。
②については，技術・工業・情報コース長として，本コースで取り組んでいる教育研究活動を推進するとともに，大学院生確保のため広報用ビデオとパンフレットの作成を担当した。
③については，生活・健康系教育連合講座副代表者としての業務を行った。
④については，知的財産室相談員（産学連携担当）及び施設整備委員会委員として本学の運営に貢献した。

## Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

**1．目標・計画**

①附属中学校教員等と協力して，技術教育分野における共同研究を行う。（附属学校）
②学校教員を対象とする研修等を通して，大学における研究活動で得られた成果を社会に還元する。（社会貢献）

**2．点検・評価**

①については，第56回中学校教育研究発表会研究の紀要に寄稿するとともに指導助言を行った。計測制御用プログラム言語の中学生向けテキストを新たに執筆し，附属中学校での授業で利用された。
②については，（独）教員研修センターから本学に委託された「平成24年度産業・情報技術等指導者養成研修」の講師を担当し，本学における教育研究活動で得られた成果を学校教員に還元できた。また，社会との連携活動では，日本リモートセンシング学会理事（研究委員会委員長），日本産業技術教育学会情報分科会編集委員として学会活動に貢献した。

## Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

修士課程及び連合大学院博士課程大学院生に対する専門的な研究指導を行うとともに，情報基盤センター所長，技術・工業・情報コース長，連合大学院生活・健康系教育連合講座副代表者として本学の運営に特に貢献した。さらに，日本リモートセンシング学会の理事を担当し，教科書（和文，英文）の出版に関わる等，当該専門分野において本学の知名度を上げることができた。